

報告 2

過去に実施したアンケート調査について

過去に実施したアンケート調査一覧

名称	対象者	実施期間
京田辺市の公共交通に関するアンケート調査	住民基本台帳から京田辺市内在住の満 15 歳以上を無作為に抽出 (10,000 人)。 3,800 通回答 (回答率 38%)	平成 20 年 1 月 21 日 ～平成 20 年 2 月 4 日
京田辺市老人福祉センター来訪者調査	老人福祉センター「常磐苑」「宝生苑」「三山木老人憩いの家」の利用者。各施設にアンケート票を設置。 212 件回答	平成 20 年 2 月 4 日 ～平成 20 年 2 月 18 日
アンケート調査 (打田区、高船区、水取区、普賢寺区、多々羅区)	60 歳以上の住民 473 人 (打田区 101 人、高船区 69 人、水取区 118 人、普賢寺区 100 人、多々羅区 85 人)。 278 人回答 (回答率 58%)	平成 22 年 12 月 20 日 ～平成 23 年 1 月 26 日
アンケート調査 (天王区)	60 歳以上の住民 125 人。 65 人回答 (回答率 52%)	平成 22 年 12 月 20 日 ～平成 23 年 1 月 26 日
宝生苑聞き取り調査	老人福祉センター「宝生苑」の利用者。 58 人回答。	平成 23 年 1 月 14 日
常磐苑聞き取り調査	老人福祉センター「常磐苑」の利用者。 44 人回答。	平成 23 年 1 月 15 日

京田辺市の公共交通に関するアンケート調査結果概要

(実施期間：平成20年1月21日～2月4日)

アンケート調査集計結果

1 「京田辺市の公共交通に関するアンケート調査」の目的と概要

(1) アンケートの目的

京田辺市において、公共交通の路線網及びサービスのあり方を検討し、市民の重要な足であるバス交通を安定的に供給できるよう、今後、多様化する公共交通ニーズを把握することを目的とする。

(2) アンケート調査の概要

1) 調査対象者

住民基本台帳から京田辺市在住の満15歳以上を無作為に抽出した。抽出件数は計約10,000人である。アンケート票は地区毎に同じ抽出率で配布した。

2) 調査票等の配布

10,000人に対しアンケート調査票をクロネコヤマトのメール便により配布した。配布物は下記の通りである。

- 公共交通に関するアンケート調査について ご協力のお願い
- アンケート票
- 返信用封筒

3) 調査スケジュール

アンケート調査の実施スケジュールの概要は下記の通りである。

- 2007年12月31日 時点の住民基本台帳から10,000人を抽出
- 2008年1月21日 アンケート調査票の発送
- 2008年2月4日 アンケート調査票の回収締め切り

4) 回収数

回収締め切りまでに寄せられた件数は3,800通(回収率38%)であり、これを基に集計を行った。

(3) アンケート調査票

配布したアンケート調査票は4頁のとおり。

2 「京田辺市の公共交通に関するアンケート調査」集計結果概要

【市民の外出行動の傾向】

- 日常の外出行動は通勤通学、買い物の2つの目的が多い。目的地は、前者は市外、後者は市内が多い。

【交通手段の利用状況】

- 公共交通の利用率を見ると、鉄道が約50%が代表交通手段として利用している。
- バスは代表交通手段としての利用が約5%と小さいものの、駅への端末利用などを含めると約20%の利用率となっている。
- 自動車利用率の高い地域は市域南部の「天王」、「高船」、「打田」といった地域であり、バス利用率の高い地域は、「山手西」、「松井」といった地域である。

【公共交通の利用状況／問題点】

- 公共交通の利用は全般的に通勤・通学目的が多いが、通院目的での移動では他の目的に比べてバスの利用率が高くなる傾向にある。
- 市内で駅勢圏が広いのは「新田辺駅」「松井山手駅」「近鉄三山木駅」の3駅である。
- 駅利用の問題点としては、京田辺駅では「バスとの接続が悪い（時間が合わない）」の回答が多く、「三山木（JR）」「近鉄宮津」で「エレベーターやエスカレーター、階段の手すり等が設置されていない」との回答が多い。

【バスの利用頻度】

- バスの利用頻度は、市民の約半数の方が「ほとんど利用しない」と回答。全体的に利用頻度は低い。
- 年齢別に見ると、若年層ほど利用頻度の高いヘビーユーザと全く利用しない層とに2分され、高齢者ほど月に数回といったライトユーザが多くなる傾向にある。

【バスの満足度】

- 「路線網」や「バス停までの時間」に対する満足度は高く、市域のバスネットワークの充実ぶりが伺える。
- 一方で利用頻度（運行本数）に対する不満が高くなっている、特に午前9時以降の時間帯（昼間時間帯）の要望が多く挙がった。
- その他に不満よりの結果となったのは「運行時間帯」、「鉄道との乗継ぎ」であり、運行時間帯については深夜23時以降の運行を望む声が多く、鉄道との乗継ぎについてはJR学研都市線

各駅との接続改善を求める声が多く寄せられた。

- また、定時性については、満足度は低くないが、市域北西部地域での不満が目立った。

【バスの改善要望】

- バス利用上の問題点に対する指摘は少なかったが、改善すべき点として、ベンチや上屋等のバス待ち環境、中心市街地での危険箇所等が挙げられた。

【バスを利用する理由／利用しない理由】

- 「他に交通手段がない」といった意見が多いが、それ以外にも「移動に疲れないから」、「駐車場の心配をしなくてもいいから」という理由が多く挙げられた。また、60代、70代では「安全に移動できるから」、10代や70代では「送迎を頼まなくてすむから」といった年代による違いも把握できた。
- 一方で、バスを利用しない理由を見ると、「他の交通手段の方が便利」「バスに乗るほどの距離ではない」といったバスを利用する理由がないという意見が多数を占める。
- また、「運行頻度が少ない」「利用したい時間にバスがない」「運賃が高い」といったバスのサービス水準を問題とする理由も挙げられており、こうした市民からの声の詳細をみると、昼間時間帯の運行や市役所への運行といった要望が多く寄せられている。
- こうしたサービス水準が改善されることにより利用頻度の増加が期待できる結果となった。

【バスの今後のあり方について】

- 不満の多かった運行頻度を重視するとの意見が多かった。また、運賃については不満は少ないものの、高齢者や障害者に配慮した料金設定や利用しやすい料金施策に関する声が多く寄せられた。
- これらの項目に加えて、「運行時間帯」「系統・路線のわかりやすさ」「鉄道との乗継ぎ」を重視すべきとの意見が多い。
- バス路線があれば便利だという施設では、「市役所」の回答が多く、市域全域からの要望が挙がった。
- 京田辺市の今後のバスサービスのあり方として「高齢者や交通弱者にとっては現在よりも便利になるよう、公共交通を改善し利便性を図るべき」の回答が圧倒的に多く寄せられた。この結果からできる限り税金での負担を抑えながらも公共交通のサービスレベルの改善が望まれていると言える。